Graham Greene：
The Basement Room—The Fallen Idol—に現われた人間像について

高　宮　孝　治

（1）

Graham Greene の名は知らなくとも映画の“第三の男”（The Third Man）や“落ちた偶像”（The Fallen Idol）を知らぬ人は少いだろう。又“拳銃売ります”（A Gun for Sale）は映画のみならず推理小説の愛読者にも馴染み深い。名監督 Carol Reed により映画化された是等の原作に於て G. Greeneは現代英国第一流の作家として秀れた物語の技巧と，特異な心理を扱い単なる娯楽本位以上のものたらしめている。彼の小説には宗教的に強い罪の意識をおりこんだ“Serious Performances„ と，スリラーものとして万人に楽しめる“Entertainments”とに大別される。前者は実に Greene の人生観と思想の中心をなすものであるが，後者とて単なる筋を追う興味本位のものでなく，作家独特の心理の追求と表現に見るべきものが多い。“The Third Man”然り，“The Fallen Idol”然り。私は映画で此の両者を見たが，最近機会あって，“The Fallen Idol”をつづけて三年間講義したので，その読後感を含めて，Greene により描かれたる人間像について愚考したい。勿論，映画“落ちた偶像”と小説“The Fallen Idol”とには若干の差異がある。例えば原作の主題は，無意識の中に最愛の友である召使頭 Baines を裏切って，警察の手に渡す少年 Philip の話であるが，映画ではBainesを殺人犯人と信じていた子供が弁護せんとして嘘をついた為逮捕されるテーマに変っているし，物語りの舞台も原作では London 郊外の山の手街であるBelgravia街の大邸宅であるが，映画では大使館と変っている。そういう違いはあるけれど，原作と映画を貫く humanism と特異な心理描写には変りはない。

（2）

“The Fallen Idol”は副題で正式には“The Basement Room”（地下室）である。即ちBelgravia 街の大邸宅の“地下室”である。そしてそこを中心にして，人生への好奇心や期待が恐怖と幻滅へ転じてゆく少年の心理過程が烈しい意識の流れを通し急速にしかも簡潔に展開してゆく。7才の少年 Philip の眼に大人の世界が如何に映じたかを，Greeneは，物語りの核心に対しては綿密な描写を試みながら，枝葉の事は極めて大たんに omit して物語りを進めている。そこに一種の神秘的ベールがあるのである。

念の為原作“The Basement Room”のあら筋を紹今しておこう。そしてそう後に主要なる人物の性格を辿っていきたい。

——或る大邸宅で主人夫妻は二週間の旅行に出かけて留守である。唯7才の子供 Philip と召使頭の Mr. Baines とその妻である女中頭 Mrs. Baines の三人のみが残る。Baines は内気で妻に頭が上らず，その癖見栄坊で，はかない夢を追う失意の人である。主人夫婦の留守を利用してゆっくり骨休みしたいと思う此の中年男であるが妻君に仕事に追われ，やるせ

ない思いをして居る。その妻 Mrs. Baines はまるで，「寝室の燈火が一陣の風に吹き消された時のあの暗黒」 She was darkness when the night-light went out in a draught のような女であり，「凍った墓場の土」 (she was the frozen block of earth.) であり「腐り果てて悪臭を放っている花」 (she was the flowers gone bad and smelling) であり，少年 Philip には「夢の中の魔女」 (the witches of his dreams) である。少年 Philip はいつもこの妻君にやっつけられている Baines に同情し，又 Bainesの大の仲好しであるが，主人夫婦の留守中， Baines が妻の眼をかすめ，街の，とあるレストランで Emmy なる女性とあいびきしているのを見つける。そして Baines から，此の秘密を決して妻君に告げないようにと約束させられる。然し帰宅後ふとした出来事から Philip は Baines 夫人に此の秘密をもらして終う。 Baines 夫人は Philip に，自分に知られた事を夫である Baines に言ってはいけないと是また Philip に約束させる。一計を案じた夫人は偽って外出し，今晩は帰れないと Baines に電報をよこす。既に妻の留守中に情婦 Emmy を邸宅に引き入れていた Baines は大喜びで Emmy を宿泊させ邸宅の一室で同衾する。その真夜中 Baines 夫人はひそかに此の邸に，しのび入り寝て居る Philip を起し問いただす。やがて Baines は発見され，二階の手すりの処で大争闘が起り Baines 夫人は夫の力に負けつき落され死体となって広間に横たわる。 Baines はその死体を彼女が地下室の階段から，あやまり落ちたかの様に見せる為，広間から地下室へと移す。然し少年 Philip は死体は広間にあった事を知っている。やがて警察の調べがあり， Baines の必死の無言の懇願にもかかわらず，Philip は，何もかも面倒くさくなって，死体の位置が違っている事を警官に告げ，更に「君は一人でその時いたのか」との警官の問に思わず，"Emmy, Emmy" と叫んで終う。情婦の存在を知った警官の手に遂に Baines は捕えられる。——

以上があら筋である。従って此の作品の主な登場人物は 7 才の少年 Philip，中年の召使夫婦 Baines と Mrs. Baines，及び神秘な匂を漂わせ素性のはっきりしない Emmy の四人である。さて作者 Greene は是等 4 人をどの様にえがいてゆくであろうか。

（3）

Philip について。

Philip は両親の留守中に生れて初めて "地下室" "The Basement Room" への階段を降りた。basement とは半地階の事で，召使の居室をはじめ料理室，食器室，食物貯蔵室，石炭置場があり，ふだんなら大家の坊ちゃんの出入する処ではない。此の新しい世界に一歩足を入れた 7 才の少年 Philip は "是こそ人生だ" ("This is life.") と感じこの未知の新しい経験に出喰わして，いつもの子供部屋で送った 7 年間の経験がすっかり混乱されて終うのだ。作者の表現によれば，「頭は色んな事が群り合って一ぱいになり，まるでずっと遠くの方の地震の振動が伝わって地鳴りしている町」みたいであった。

(His crowded busy brain was like a city which feels the earth tremble at a distant earthquake shock)

そして Philip は此の未知の世界に出て恐かったが，その反面今までにない幸福を感ずるのである。やかまし屋の Baines 夫人は階上の掃除で急しい。Philip は地下室のその下男部屋である Baines の，居室で Baines の，アフリカ沿岸時代の夢のような話を聞かされる。Baines は Philip を恰も対等の大人に対する如く扱ってくれたので，Philip も又，自分が「世間でも通用する一かどの大人になった」 (He feels vry old, independent and judicial)

と感じ内心得意である。やがて Baines 夫人が降りて来て Baines との間に口論が起る，Philip は子供部屋へと去るが，背後に物のくだける音を聞き，彼等夫婦のいさかいを思い暗い気持になり「是が人生だ！」（This is life）と思う。そして「自分がこの家の主人で，Baines は永年居る召使いだから面倒をみてやる責任を感じた」

(……suddenly he felt responsible for Baines, as if he were the master of the house and Baines an ageing servant who desreved to be cared for.)

けれども7才の少年 Philip に何が出来ようか。まあせいぜい親切にしてやろうと決心する。その Philip が最後に知らず知らず，Baines を裏切るのである。Philip はやがて単独で街へ出る。Mrs. Baines 夫人と争って町へ飛び出したのだ。そして街路をみわたして「是が人生だ，今自分はその人生の真中に居るのだ」（"It was life he was in the middle of."）と感ずる。そして或るレストランで Baines が若い女と一緒に居るのを見つける。そして「今迄と違った人生にふれ」（he was less sheltered than he had ever been）「他人の生活にはじめて接し」

(……; other people's lives for the first time touched and pressed him)

強い印象をうける。やがて女は去り Baines と Philip は戻るがその途上 Baines は口止めを Philip に約束させる。かくして Philip は未知の世界に出た瞬間勿ち，大人の生活に引きずりこまれるのだ。然し帰宅後不用意な Philip の言葉から，その秘密がもれる。Baines の約束を裏切った Philip は自らに「腹が立ち嫌な気持になり絶望していた」

(Philip was angry and miserable and disappointed because he had'nt kept Baines secret)

処が Baines 夫人は，自分が秘密を知った事を Baines に告げるなと Philip に又約束をしいる。Philip は「最愛の Baines の約束を守らなかったのに Baines 夫人の約束を守らねばならない人生の不均衡」

(the idea that he had got to keep her secret when he hadn't kept Baines's)

を嘆くのである。Philip は何もかも面倒くさくなった。「そんな大人の生活に引きこまれたくない。」「何もかも忘れなかった。」それなのに，Philip は，「自分が欲しいと思っていたよりもずっと大きな人生の小箱を受け取ってしまったので恐かったのである。」

(he was only anxious to forget. He had received already a larger dose of life than he had bargained for.)

偽わりの外泊から不意に戻った Baines 夫人に責められ，やがて夫人が，Baines が情婦と同衾中の部屋のドアーをあけるのを聞き乍ら Philip は一層の事死んで終い度いとさえ思う。そして，やがて演ぜられる Baines 夫妻の浅間しい格斗の場面を目撃し，夫人が階下の広間に転落，墜死するのをみて独りこっそり夜の巷へとさまよい出るのだ。「一種の幸福から見棄てられたとの感じと自己憐憫とから彼は泣き出した。彼は失われたのだ。もう秘密は守れないだろう。一度にすっかり責任を投げ出して終ったのだ。大人の世界は大人に任せて彼は自分の世界を守るだろう。」

(A kind of embittered happiness and self-pity made him cry; he was lost; there would not be any more secrets to keep; he surrendered resposibility once and for all. Let grown-up people keep to their world and he would keep to his.)

Philip は利己主義者なのだ。だから Baines は裏切られたのだ。偶像は落ちたのだ「失われ

た子供時代のユダにキリストは裏切られたのだ」

(In the lost childhood of Judas Christ was betrayed.)

Philip がその子供時代のユダなのだ。だから最後の場面で警官に尋問された時，必死の懇願の Baines を尻目に，「徹底した自己中心の気持になって人生からも愛からもベーンズからも抜け出したのだ」

(Philip extricated himself from life, from love, from Baines with a merciless egotism)

「人生や苦労や人間関係からの永い全面的退却なのだ。」

(A whole prolonged retreat from life, from care, from human relationships is involved)

「エミーが居たんだ！エミーが！」と警官の前で Baines を裏切って口を割る Philip，利己的少年 Philip！ けれど彼はどんな秘密をも守る重荷にたえかねたのだ。「何もかも，ベーンズもベーンズ夫人も彼の知らない大人の生活をも」

(he was going to finish once and for all with everything, with Baines and Mrs. Baines and the grown-up life beyond him)

「落ちた偶像」(The Fallen Idol) 一体誰が偶像なのか。罪を犯した Baines からみれば，秘密を守ってくれるべき Philip こそ偶像なのであったろうが，その偶像はふんさいされた！ 一体誰が偶像なのか。7才の少年 Philip からみれば男らしい責任のある陽気な Baines こそ偶像なのであったろうが，警官の訊問にあって，あの間の抜けた，女々しい懇願をつづけた Baines への Philip の偶像はふんさいされた！

Baines について

Mr. Baines は召使頭であり以前に主人の供をしてアフリカ沿岸に生活し黒人の部下を40名も持ったと Philip に自慢し，表面上，大きな人物であるように見せかけ，Philip にとっては素晴しい憧れの人物なのである。そして，少年 Philip とは異り苦労をし世の辛酸をなめつくして来た。少年 Philip には此の basement（地下室）の柵越しの道路を往来する人々の向うの世界は知られていないが，Baines はその向うの世界を知っているのだ。彼は現在の夫婦生活を嫌悪している。けれど Baines は，ぐちを言わない。何故なれば，「自分で自分の運命をきめたのだ。ベーンズ夫人をえらんだのが自分の運命だとしたら罪は自分にあるのだ。」

(Baines didn't complain; he had chosen his fate; and if his fate was Mrs. Baines he had only himself to blame.)

然し今日は主人夫婦も留守だ。せめて今日位はのんびりしたい。そこで Philip を相手にアフリカ時代の，ほら話にふける。然し掃除を途中に地下室に降りて来た Baines 夫人の為にすっかり楽しい気分を乱される。

Philip を連れて街へ遊びに出ようとする彼とその妻の間に，いさかいが起る。「仕事が第一で，楽しみは後からですよ」(Work first, pleasure afterwards) と妻からおさえられ，彼のうっぷんのせいぜいは，「畜生！」(Blast!) と叫んで物を投げこわす位である。それ以上は，「鉄格子で自由を奪われたものの悲しい絶望的な憎悪の眼」

(the sad hopeless hate of something behind bars)

のみである。だが遂にチャンスをみつけ情婦 Emmy と街のレストランであいびきする。がそれも又，たまたま街へさまよい出た Philip にみられて終う。子供に口止めする Baines，「もう私も先は永くありませんからね。何しろ若くはないんでね。あの女が巧くやってゆけ

るように面倒をみてやらねばなりませんものでね」

(I haven't time to spare. I'm not young. I've got to see that she's all right)

と嘆く Baines なのである。然し金だらいを叩き，Philip を起し乍らふざける Baines でもある「万才，万才，ベーンズ夫人が外出されたことをお知らせ申し上げます。彼女の両親が危篤でありまして明日まで帰宅致しません」

(Glory, glory ! I beg to announce that Mrs. Baines has been called away. Her mother's dying. She won't be back till to-morrow.)

すっかり，う頂点に喜ぶ Baines なのだ。「街路では誰かが敷物をふるっている。猫が家へ帰る。……まるでアフリカにいるみたいにね。いつだって，大抵人間は自分の持っているものに気がつかないんです。弱気にならなければ人生は楽しいものです。」

(somebody shaking mats and the cat coming home …… just as I was still in Africa. Most days you don't notice what you have got. It's a good life if you don't weaken.)

その癖弱気で内気で妻に頭の上らない Baines なのだ。Baines はほんとうに幸福ではなかった。遠くにある幸福を近寄って眺めているに過ぎなかったのだ。やがて Baines 夫人の不意の夜半の帰宅に情婦との現場をおさえられ，遂にかん忍袋をきった Baines は考える暇もなくまるで，「違った人間みたいに，どうもうに戦った」

(He hadn't time to think, he fought her savagely like a stranger.)

夫人を階上より墜死せしめる。そして警官の訊問に，すべてを知っている Philip に犬みたいに黙って懇願する。「もう一つだけ秘密を守って下さい。古なじみのベーンズの為にこの秘密だけはどうか守って下さい。もう是以上他の秘密を守れとはお願いしませんから」

(One more secret, keep this secret, do this for old Baines, he won't ask another.)

と情けない Baines ！ 男らしく責任をとる Baines は一体どこへ行ってしまったのかと少年 Philip は悲しむ。Baines の抱いている夢は夫人の為，次から次へとこわされ，遂に殺人の罪を犯さねばならなかった Baines！ 偽善的利己主義者少年 Philip に一抹の同情がなかったのか。

Mrs. Baines について

男性の悲劇が Baines の上に典型的にみられるとすれば，女性の哀愁，宿命は Baines 夫人の上にあろう。彼女はヒステリー気味の，恐らくやせ，ひからびた，しかもさいぎ心の強い中年夫人であろう。仕事には忠実であり子供には厳格である。Philip には Baines と対象的に好きになれない女性である。そして彼女は，「良い召使だったから静かに歩き意志の強い女だったから規則正しく歩いた」

(she was a good servant, she walked softly; she was a determined woman, she walked precisely.)

彼女は夫である Baines に対しばく然とした疑惑をもっている。そしてレストランに於ける夫と情婦とのあいびきを Philip の口から掘り出して終うのである。レストランで Philip が Baines から貰ったお菓子の屑の出処を追求する夫人は，Philip が不用意にもらした，「あの人たちがくれたんだよ。」 (They gave it to me.) の「あの人たち」という複数にとびついた彼女は，では夫ひとりではなかったのか。誰が夫と一緒だったのかと怪しみつづけ

る，Philip にカマをかける。「あの女がベーンズと一緒にお茶を飲んだのでしょう。」

(I suppose she was having tea with him.)

Philip は，わけなく，そのわなに引っかかった。「どうしてあの女が一緒じゃいけないの？」(Why should not she ?)「あの女，きれいだよ」(she was nice.) きれいだって？中年のひからびた夫人の心は如何に悲しみと怒りに満されたことであろう。そして彼女は，自分がまだ知らないで居るようにみせかける為に Philip に口どめする。Philip はBaines の秘密を破り，Baines 夫人の秘密を守ることを強いられるのだ。やがて計画した彼女は偽わりの外泊から突然帰宅する。夜半 Philip は不図眼がさめる。階下の主人の居ない一室では Baines は情婦 Emmy と同衾中である。「灰色の髪の毛をばらばらにふり乱し，黒い帽子を横っかむしりていた。外れたヘヤピンが一本，枕の上に落ち，かびくさい一本の髪の毛が Philip の口にふれた」

(he opened his eyes and Mrs. Baines was there, her grey untidy hair in threads over his face, her black hat askew. A loose hairpin fell on the pillow and one musty thread brushed his mouth.)

あの女が来ているのだ。かくしても駄目だ。あの女が此の家に確に居るのだと夫人は確信する。残忍，苦悩，それが彼女のすべてであった。Baines夫人は不図鏡をみる，「苦悩と残忍さに身をふるわせている年老いた，汚れて何の希望もない女の姿があった。涙は出なかったが，息をころしながら乾ききった声をあげてすすり泣いた」

(she could see bitterly there her own reflection, misery and cruelty wavering in the glass, age and dust and nothing to hope for. She sobbed without tears, adry, breathless sound.)

此の残忍さこそ彼女，悲しみのどん底に居る彼女を勇気づける唯一の誇りだ。此の特権を彼女から奪ったら，それこそ彼女は誠にみじめな存在であろう。やがて階段の上で Baines との争いが起る。夫人は誰かれとなく皆やっつけたかった。皆が彼女をだましたのだ。だが彼女の年令，そして屈辱，更に夫を奪われた希望なさが，彼女のハンデキャップとなり遂につき落され死ぬのである。Baines 夫人の心の中，読者に察するにあまりあるであろう。

Emmy について

是は作者が神秘のヴェールで掩いかぶせ，素性だに明らかにされない。謎の女である。Philip は老年の死の直前まで，"Who is she? who is she ?" といい続けている。

以上で "The Basement Room" 即ち "The Fallen Idol" の梗概をかねて，登場人物の主なるものの，人間像をのべたのであるが，Greene はスリラー的興味と共に，少年 Philip の眼に映った大人の世界，そしてその動きに変化しゆく少年の巧みな心理描写に秀れた才能を示している。かつて映画「落ちた偶像」をみた人々は今一度，原作をよみ返していただきたい。